

1. 第1回研究会での主な意見及びさいたま市の今後の取組案 について

令和7年度第1回研究会での主なご意見（要約）

<周知>

- アバスポの開催場所周辺の学校やスクールキャラバン実績校だけではなく、さらに広い範囲を対象にチラシを配布すると良いのではないか。

<内容>

- イベントの質にムラがあると感じた。初めて触れた（体験した）ときに、楽しかったという記憶が今後続けることに繋がる。
- スラックラインの実施について、管理者がいない状態があり、非常に危険な状態だった。怪我に繋がる恐れがある。知識を持っている人が近くにいる、楽しさを伝えていくことが本来の形ではないか。

今後の取組案

<周知>

- 市公式のSNSはもとより、さいたまスポーツコミッションのSNS、駅等に設置してある公共のデジタルサイネージ、実施会場に協力いただいた広報等、周知媒体の拡大を図る。
- 教育委員会の方針も踏まえ、電子媒体での案内を強化していくことに加え、可能な範囲でチラシの配布を行っていく。

<内容>

- 親も参加しやすい形態（当日の声掛け）について検討する。
- パークやショップへ連携協力を呼びかけ、方向性が合致する者と、連携の取組について検討する。
- 単に体験機会を提供することにとどまらず、楽しさを伝えることを目的として、各コンテンツには、原則、パフォーマンスができる専門の講師を配置する。
- パフォーマンスができる講師の配置が難しい場合には、安全確保のための人員を必ず配置の上、ディスプレイを配置し、パフォーマンスや競技の魅力紹介の動画を流す。

※想定しているのはスラックライン・けん玉

令和7年度第1回研究会での主なご意見（要約）

<活用>

- アバスポのアンケートで、コンテンツ別の平均参加人数や参加者の居住地等を把握し、アーバンスポーツができる場所の整備に当たり、どの地域にどれくらい人が来てくれそうかという利用者想定を行った方が良い。

今後の取組案

<活用>

- アバスポさいたまにおいて、以下の内容について、電子媒体等を活用し情報提供やPRを行う。
【掲載内容】
 - ・アバスポさいたまの年間スケジュール
 - ・アバスポふらっと野田小プールの紹介
 - ・市内のイベント・パークの紹介
 - ・ルール・マナーの普及啓発活動の紹介
 - ・アーバンスポーツ振興の趣旨（人間形成など）の紹介
 - ・アーバンスポーツの効果・メリット／ストリート（公共の場）でやった場合のリスク
 - ・アンケート結果や写真
- アバスポさいたまのアンケート項目に、参加者の居住地を追加する。
【参考 アンケート項目】※属性に関するものの抜粋
 - ・保護者の年代
 - ・子どもの学年
 - ・普段どのくらいスポーツを実施しているか
 - ・アバスポさいたまへの参加回数

アーバンスポーツができる場所の整備関係

令和7年度第1回研究会での主なご意見（要約）

<設備>

- （新見沼大橋有料道路高架下（J区画）について、）ローラースポーツ以外のニーズがある可能性を考えると、バンクトゥバンクの設置が良いのか疑問である。
- （新見沼大橋有料道路高架下（J区画）について、）バンクトゥバンクだけなら、フラットな面のほうが良い。スクールキャラバンやアバスポさいたまに参加した人向けのスクール等を実施する場として適した広さであるが、バンクトゥバンクがあるとレベル別に半分に分けて実施することもできない。
- （新見沼大橋有料道路高架下（J区画）について、）既設のD区画と新設のJ区画が離れており、スケボーで移動してしまう人がいる可能性等も考えると使い勝手が悪いのではないかな。

<内容>

- （新見沼大橋有料道路高架下（J区画）について、）D区画周辺は路上駐車が多く、雰囲気はあまり良くない。D区画の利用者のルール改善のモチベーション向上に繋がる対応も必要ではないかな。

今後の取組案

<設備>

- 道具を貸し出すための課題（講師等教える者の確保等）の解消に向け検討を行う。
- 「できる場所」の整備は、当初概定したコンセプトに従い、BMX・キックバイク、スケートボード、インラインスケートで利用可能な場所として整備していく。
- 「できる場所」の路面は全面フラットを基本とし、セクションの設置については、供用開始後の利用者ニーズに応じ検討する。ただし、三橋総合公園北側市有地については、概定した想定面積を大きく超えていることから、整備段階でのセクション設置について検討を進める。
- 新見沼大橋有料道路高架下（J区画）については、当初概定したコンセプトに従い、初心者や子育て世代にふさわしい場所として整備していくものであり、既存のD区画とターゲットが異なることから、予定どおりの区画で整備を進める。

<内容>

- スクールやイベントの実施について、近隣のスクール講師やパーク・ショップへの協力の呼びかけを検討する。まずは、市主催のイベントとして協力をお願いする。
- 利用者のルール・マナーについて、以下の方法により普及啓発を図る。
 - ①看板の設置
 - ②市HPでの有名選手等によるインタビュー動画の配信

令和7年度第1回研究会での主なご意見（要約）

<内容>

- アバスポさいたまの講師が自身のスクール等を開講していない場合、アバスポさいたまの参加者が「アーバンスポーツをもっとやりたい」と思っても、継続的に取り組む先がないのではないか。
- スクールキャラバンやアバスポへ参加した子のその後の受け皿の確保として、行政が場所の確保や広報等に対応し、民間に自主採算で実施してもらうことが、一つの形として考えられるのではないか。

今後の取組案

<連携対象>

- [再掲]パークやショップへ連携協力を呼びかけ、方向性が合致する者と、連携の取組について検討する。

<内容>

- パークやショップへ連携協力を呼びかけ、方向性が合致する者に、チラシを配置してもらい、ストリートでやった場合のリスクなども伝えてもらう。
- アバスポさいたまからのつなぎとなるスクール事業等の実施に当たり、市が場所を確保し、事業者に実施してもらうスキームが可能かどうか検討を進める。

2. 三橋総合公園北側市有地の整備について

三橋総合公園北側市有地の整備概要（1）

【場所等】

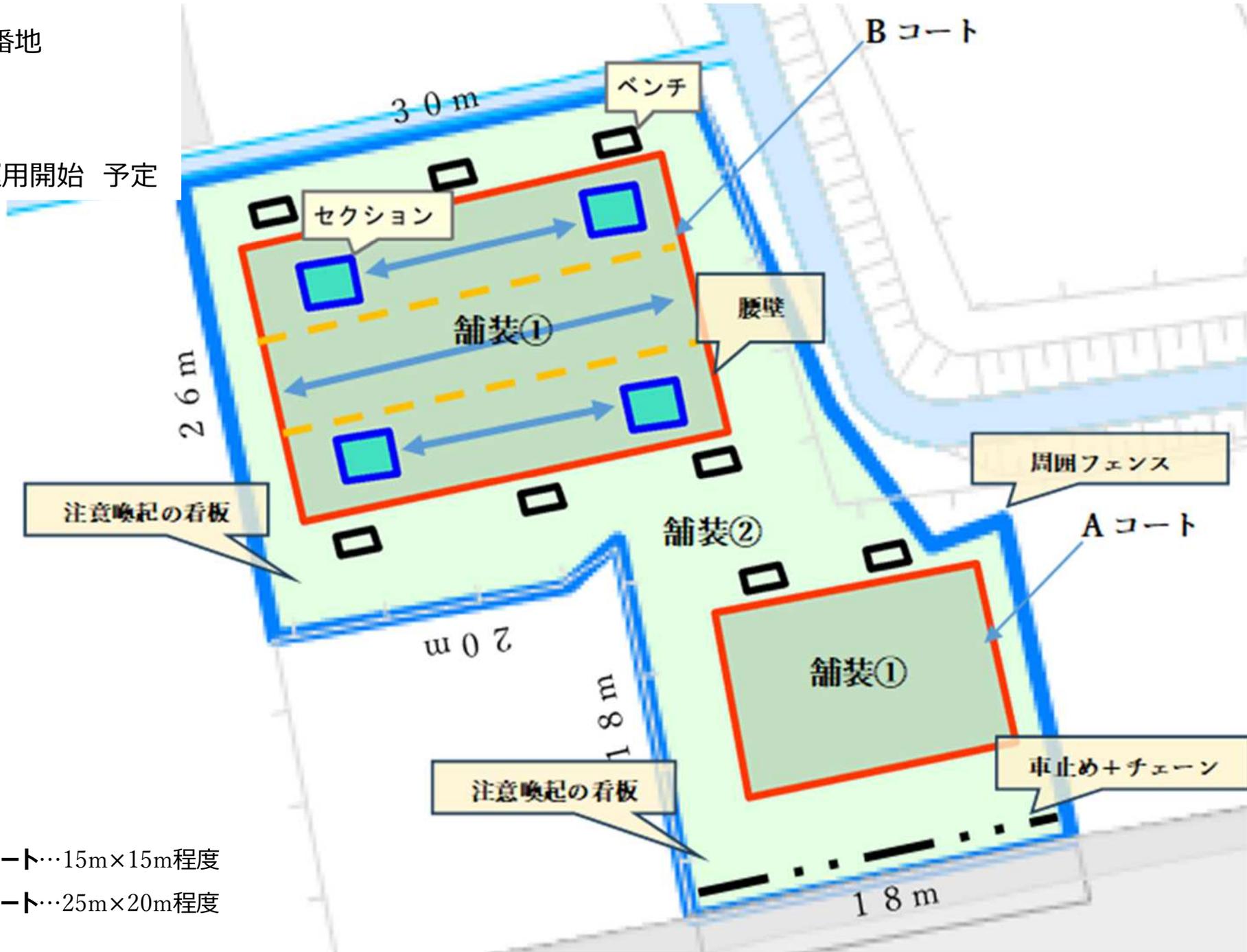
西区三橋6丁目835番地

面積・1,362㎡

【スケジュール】

令和7年度設計、

令和8年度工事～運用開始 予定



Aコート…15m×15m程度

Bコート…25m×20m程度

計画（案）概要

<主な利用対象>

- ・ 初心者や子育て世代

<ゾーニング>

- ・ 3つのエリア設定（フラットエリア、セクションエリア、見学・休憩エリア）

<セクション>

- ・ 追加や変更に対応できる可動式
- ・ BMX・キックバイク、スケートボード、インラインスケートのいずれも利用可能なもの

<舗装>

- ・ 密粒度アスファルト舗装

<スケートボード等対応>

- ・ 案1 周囲フェンスを活用
- ・ 案2 腰壁を整備

<設備>

- ・ 見学・休憩用ベンチ、ルール・マナー啓発や注意喚起看板、ゴミ箱、駐輪スペース
※自動販売機の設置やキッチンカー対応についてはニーズを確認の上で検討

<運営>

- ・ 開設時間：照明を要しない時間帯（例 8:30～19:00）、無休
- ・ 管理方法：無人管理 ※開設時間外の出入り口施錠
- ・ 道具貸出：野田小同様の課題解消次第

三橋総合公園北側市有地の整備に関する第1回研究会でのご意見

整備内容	選手の怪我や安全管理面でも照明を設置し、明かりを確保する。
	非舗装面が砂利や土の場合は、滑走面に簡単に石が入り込み転倒の危険が増える。雨でぬかるむ場合は、滑走面が荒れやすい。
	「子どもと保護者が来る」ことを意識し、保護者が待機（「座って見守る」など）する場所などの確保。
	初心者向けとのことだが、すぐに上達する人たちが出てくるため、運営して行く中で、セクション等の充実を図れる道筋を考えておく方がいい（運営受託者もしくは利用団体主体で）。
	「年下の子ども＝まだアーバンスポーツができない年齢の子ども」を連れてくる可能性への配慮（例えば、遊具などの配置）。
	「アーバンスポーツ」はかなりの速度で変化する可能性がある（種目、人気）。それらに「ある程度」対応できる可変性を持つておくべきでは。
	子どもの遊具ゾーンによくあるゴムチップ性の地面であれば、物理的に滑れないが、初心者には転んでも衝撃は少なく、怪我のリスクが抑えられ向いているかも。
	止まって練習するゾーン、滑らない練習ゾーン（手すりを用意して）があってもよいかも。
	屋内はコンクリ、屋外はアスファルトのイメージがある（水はけの問題）。
	人工芝は管理が大変なので、ジョイント式なら可能ではないか。
	セクションとしてクォーターランプが両端にあるとそこを使ってスピード感ある滑りができるかも、バンク、ハーフボックス、フラットレールがあるとよいかも。
	ベニヤ板より専用の素材を使用すべき（管理の問題や怪我のリスクを考慮して）。
	3 on 3用のバスケットゴールを設置すること等で、アーバンスポーツを目的で来なくても触れられるきっかけをつくる。
パークのようなセクションが揃った施設があればいいが、まず行政が取組むこととしては、フラットな面の整備だと思う。	
ルール	ルール・マナーの普及啓発を目的の一つとした場合、利用ジャンルごとの取りまとめとスクール・体験会等は不可欠。使う人たちのコミュニティの創発、育成を。
	「ルール・マナーの啓発」の観点から「使用一時停止」のルールを定めておく。
	隣接する公園の駐車場やトイレの行き来で道路を横断したり、滑走しないよう注意が必要。
	「〇〇をやったら利用一時停止する」だと〇〇をやらなければ、停止されないと思われかねないので、事象を限定するのではなく、曖昧な形で利用停止することを掲示するべき。
その他	アバスポ参加者や既にアーバンスポーツをしている方にとっても行きやすい・入りやすい環境か、個別に意見を取り入れてはどうか。
	計画地にどのような形で誘客するか、定期的なスクールなども検討。
	上級者や熟練者は、活動場所を確保できていると考えられるため、初心者が対象であることを「少し、強く」してはどうだろうか（上級者・熟練者には「使えないことはない」程度）。
	業者の看板設置などを認め、その費用を上記（整備費用？遊具？）に充てることはできないか。
	近所の方や公園利用者等に現状や懸念点などを聞き取りに行く。
	S N Sをつかった周知、意見聴取。
	奥まった構造になっているため入口に看板をつけるなど、入りやすい雰囲気づくりや駐車場の案内などの周知が大事。

3. 公民連携について

公民連携組織の設置（1）

○現状の懸案事項

- ・アーバンスポーツ活性化事業の推進に当たり、イベント機会の拡大と更なる質の向上を図るために、公民連携が必要。
- ・アーバンスポーツの普及、ルールマナーの啓発ができる人材の育成ができていない。
- ・民間の主体的な取組を促進するには、現状の事業スキームでは限りがある。



○対応（案）

SSCを主体とする、**公民連携組織**を設置。

<公民連携組織の概要（案）>

○組織化の目的

公民連携組織において、民間活力を活用し、体験イベントの実施やルール・マナーの普及啓発等を、より効果的に実施する。

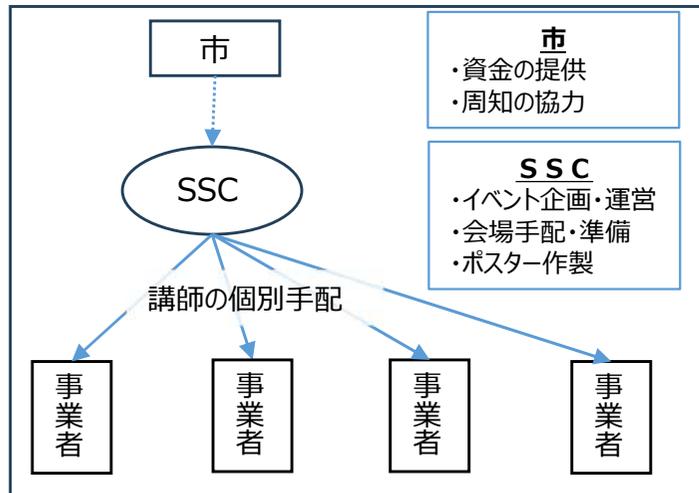
<機会の拡大> 民間活力の活用（資金やノウハウ）による体験イベント等の回数の増加

<質の向上> 各回のイベントコンセプトの共有化や実施方法の検討の円滑化及び民間のノウハウを活用したより一層魅力的な内容の充実

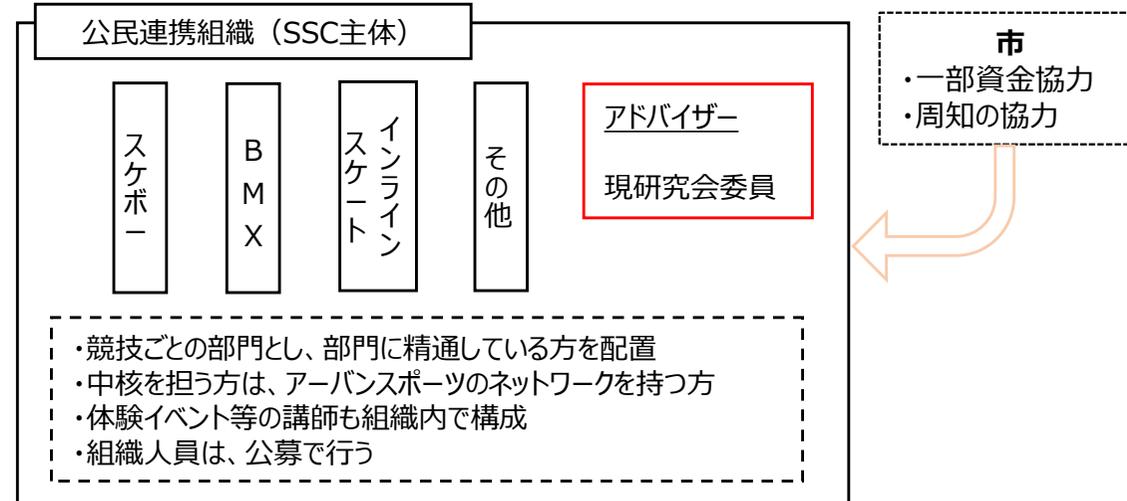
<人材の育成> アーバンスポーツ関係者を含めた公民連携組織の参加者との協働による効果的に体験イベントやルール・マナーの普及啓発を行うことのできる人材の育成

○組織イメージ

<現状>



<将来像のイメージ>



○役割

<既存事業の拡充>

- ・持続可能な体験イベント等の実施（アバスポさいたま、スクールキャラバン）
→体験イベント等の企画・運営・実施（市は場所の提供と周知協力）
- ・ルール・マナーの普及啓発
→チラシやポスターの作成、啓発キャンペーンの企画と実施

<新規事業の実施>

- ・体験イベント、ルール・マナーの普及啓発を行うことのできる人材の育成
→イベント講師のための講習会等の実施による人材の育成
- ・アバスポ等以外の持続可能なイベントの実施（教室等）
→教室形式でのイベント実施、大会の実施や誘致
- ・アーバンスポーツができる場所の管理
→管理規約の策定、定期清掃や定期巡回によるマナー啓発

公民連携組織の設置（2）

【組織化までの取組】

①指導者人材の発掘

民間施設の指導者、各競技の協会等に所属の方、任意団体に所属し活動されている方、プレイヤー、イベント参加者等、多くの方に声をかけを行い、競技振興とルール・マナーの普及啓発に関する市の方向性に共感・賛同する方の中から、公民連携組織の中核を担う人材の発掘を行う。

<p><市内・ショップやパークの状況></p>	<p>【市内】</p> <p>○スケートボード : 4 団体 ○インラインスケート : 2 団体</p> <p>○プレイキン : 1 団体 ○3×3 : 1 団体</p> <p>○アーバンスポーツ全般 : 1 団体</p>	
<p><研究会委員からの御意見></p>	<p>人材として適切かどうか、日々の活動や価値観によっては連携することは難しい</p> <p>→市の方向性と合致する方との連携を図ることが重要</p>	
<p><現状のアプローチ結果></p>	<p>市の方向性に協力的な団体は一部に限定されている</p>	
<p><今後の発掘の進め方></p>	<p>市内</p> <p>・共感、賛同する方へアプローチ</p>	<p>市内外</p> <p>・他都市と同様の取組を行っている団体等へアプローチ</p> <p>・研究会委員からの紹介を受けた方へアプローチ</p>

②ワークショップの開催（協力人材の発掘等）

協力人材の発掘及び公民連携組織の設置に向けた試走を狙いとする準備会として、令和8年度にワークショップを開催し、令和9年度中の公民連携組織の設置を目指す。

<ワークショップの目的>

- ・競技振興及びルール・マナーの普及啓発のための方策の検討
- ・公民連携組織の在り方（役割）の検討
- ・公民連携組織の設置に向けた人材発掘

<ワークショップ参加者の募集>

- 募集方法：公募（5名×4グループ程度を想定）
- 対象：
 - ・アーバンスポーツの活性化に関心がある人
 - ・スポーツによる地域活性化に関心がある人
 - ・アーバンスポーツに精通している人（プレイヤー等）

<ワークショップの内容>

- 第1回：競技振興及びルール・マナーの普及啓発のための方策について
- 第2回：第1回議論した内容のブラッシュアップ ※調整次第で実際のイベントでの体験を想定
- 第3回：アーバンスポーツ公民連携組織について、ワークショップのまとめ

公民連携組織の設置 (3)

③組織化まで全体スケジュール

